

# 横浜西区郷土史研究会会報 第六四号

## 郷土の歴史研究と区制八十周年

田村 泰治

一、はじめに

令和六年（二〇二四年）は西区が区制施行八十年を迎え多くの記念行事が展開されました。歴史を振り返る行事もありにぎやかな一年でした。私共が関係協力した行事では『西区今昔かるた』の制作や小中学生の大会が開かれて歴史事象のカードの取り合いが行われ、好評を博しました。特色はカードの裏表に西区の歴史施設や出来事の昔と現在の状況を写真で載せてあります。遊びながら生活している地域の歴史を知ることになり、学校では学べないことを知り郷土に親しみと発展していくことへの観点が知らないうちに認識されるのではないのでしょうか。古くから「温故知新」といわれることは歴史を学ぶ事なのです。

二、地域史としての郷土史

私たちの生活舞台は有史以前か

ら現代まで先人の努力や実践の上に成り立っています。西区はその近代と言われる時代に政治的・行政的に成立しました。歴史区分は種々ですが大きな時代の流れでは一言も出てきません。でも、そこに住む私たちにとつては大事なことです。それを捉える歴史が「地域誌」であり、それよりももっと身近な歴史が「郷土史」と言えましょう。そこに住んでいる人々が多くの課題を解決しながら生活し将来を託していることを学びたいのです。現在では多くの課題や問題が山積しています。区政として捉えると『高齢社会と区政』『町としての活性化』そして『地域の連帯性』が考えられます。そこにより現実的な事象が個々に生じてくることでしよう。

西区は区制七十周年から「温故

知新」を中心に置いて区政が進められてきています。その間「横浜西区史」の編纂や多くの継続されている行事もあります。経験を生かして進めることへの記録が郷土の歴史と言えます。

三、歴史は変わります

郷土の歴史をまとめて論文を書き、多くの人の承諾で固定した歴史事象となります。しかし新しい事実を示す資料（史料）が出ますとその歴史事象は書き換えられます。

逆に意図する考えや思いで歴史を記述する「史観」があつて成り立っていますので人それぞれの歴史にもなつてしまいます。それは史実の解釈の際、その人の考え方や人生観、思想に基づいているからです。

四、まとめに代えて

郷土史をまとめたり、研究するとき、まず地域を知るため歩いてみる。先人の書物や古老を訪ねてお話を聞いたり、読んでみたりして何が原因だとか、障害がなんであったのかを確かめることから始めます。まとめを書き表すとさらに問題点が浮かびあがってきます。

歴史から学ぶことが沢山あります。楽しさが増し益々郷土を知ることが好きになるでしょう。具体的な事例を、二あげてみますと霞ヶ丘にある「百段」という石段があります。昔から「百段」としていましたが上つて見たら「百一段」でした。すると読み違えたのか、後から改造したのか、それとも「たくさん」という表現で「百段」と表現したかを調べることも研究になります。南区の中村町から平楽に行く坂道に動物の名前がついています。「蛇坂」「やぎざか」とか、他の坂にも「牛ざか」があります。西区にはどうでしょうか、知られているのは「暗闇坂」ですがこれを「鞍止坂」と読み替えているようです。身近と言えば京浜急行「平沼駅」今はありませんが駅跡は残っています。この駅は横浜駅に近いことで戦前には廃止になりました。どうしてそのままでしょうか。加えて焼けただれた姿ですね。これを調べると町の発展や太平洋戦争のこと、横浜大空襲を知ること。調べるのも楽しいですね。これが地域の歴史研究の一步となります。

# 令和七年度 前期 事業計画

令和七年四月～七年九月

## 歴史散歩 (前期一回 第一土曜日)

・六月七日(土) 西区の幻の七福神めぐり  
集合・楠町バス停留所 10時

講師 鶴沢 秀男

## 定例講座 (戸部コミュニティハウス 十四時)

・四月二十六日(土) \*総会後の特別講演\*

久保山に眠る有馬四郎助と横浜監獄

講師 田村 泰治

・五月二十四日(土) 日本合戦記

講師 鶴沢 秀男

・六月二十八日(土) 後北条の御一家

徳川家康の義兄弟北条氏規

講師 麻生 民次

・七月二十六日(土) 道教について

講師 吉田 欣司

・九月二十七日(土) 長谷川伸と横浜

講師 関根 啓二

## 横浜西区郷土史研究会 会報 第六四号

発行日 令和七年四月一日

発行者 横浜西区郷土史研究会長 鶴沢秀男

編集者 鶴沢秀男 田村泰治 山口精一

麻生民次 関根啓二

会報年二回発行 四月一日・十月一日